



腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介しつゝ

第十一回 ちぎり絵
山尾敏子さん (有田)



夢の薔薇

ちぎり絵との出会いは、20年前。そのすばらしさに心を奪われた山尾さんが作る作品は季節感のあるものが中心で、和紙とは思えぬ繊細な描写は、まるで水彩画のよう。50種類以上の和紙を使用する大作にも挑戦するという山尾さん。気がつけば真夜中になっっていることもしばしばあるとか。「和紙を重ねることので深みのある色合いが表現できるとは、出来上がった作品は、親しい友人などにプレゼントしているそうで、喜んでもらえることが一番嬉しいそうです。夢は、「自分で染めた和紙を使って作品を作りあげること。来年あたりから初めてみようかな。」と笑顔で語ってくださいました。

ちぎり絵の和紙の魅力にひかれつつ
指先からやかに 夢は果てなき

展覧会と行事のご案内

特別陳列

うめはら とうは
梅原藤坡

開催中

1月14日(日)まで

特別陳列

法隆寺金堂壁画

-コロタイプ版複製を中心として-

1月20日(土)

~3月4日(日)

原寸大コロタイプ版複製や、模写などを展示。

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>



しゆくせつ

宿雪 II

小野竹喬 作

昭和40 (1965) 年頃

23.6×28.5cm

竹喬美術館の光彩 49

「本栖から精進湖に行く途中の風景ですが、以前に降った雪がつもりにももって、もちろん木にはつもっていませんが、山の斜面一面に雪がつもっているところ。・・・寒いのは苦手なので弱りましたよ。すぐ手や足がこごりますので落ち葉をたいたりしてかいたんですが絵をかくときは手袋をしてはかけませんのでつらかったです。」(竹喬のことば)

作品であれスケッチであれ、その完成度の高さのために、かえって作者の存在が忘れられることがある。積もった雪と雑木林の静寂の中に確かに竹喬は立っていて、寒さをこらえて景色を写し取っていた。

今月の表紙

東の空から昇る太陽。まばゆいばかりに降りそそがれる朝日を浴びて、水面を優雅に泳ぐ鳥たちは、キラキラとまるで宝石のよう。川岸には、その姿を楽しんでいるかのように季節はずれの菜の花が咲き誇っています。

笠岡湾干拓地内の農道空港から市街地を見渡すこの風景。2007年という新しい年を迎え、笠岡市の夢と希望を胸に明るい未来に向けて輝き始めています。

係から

松坂選手の米球界入りは、破格の移籍金と年俸で大きな話題となりましたが、昔は夢と思われていた日本人大リーガーも今や現実のものとなり、選手が入団するための手法も多様化しています。

さて、笠岡市の将来の発展を左右する夢の大地「笠岡湾干拓地」。皆さんはどのような姿を思い描かれていますでしょうか。強い信念を持ち続けられ、夢は必ず実現するものだと言われています。2007年の初夢が素晴らしいもので、そして正夢であることを願ってやみません。(中)



中野素嗣



土屋武之

発行日/平成19年1月1日
発行/笠岡市役所
編集/企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷/株国輝堂 ☎67-5111

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス: kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています